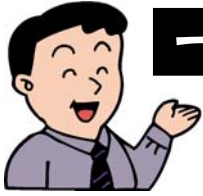


市の財政の状況は？ 財政診断結果発表！



本宮市の平成19年度各会計の決算がまとまりました。皆様から納めていただいた税金がどのように使われているのかをお知らせします。

平成19年度決算の状況



一般会計

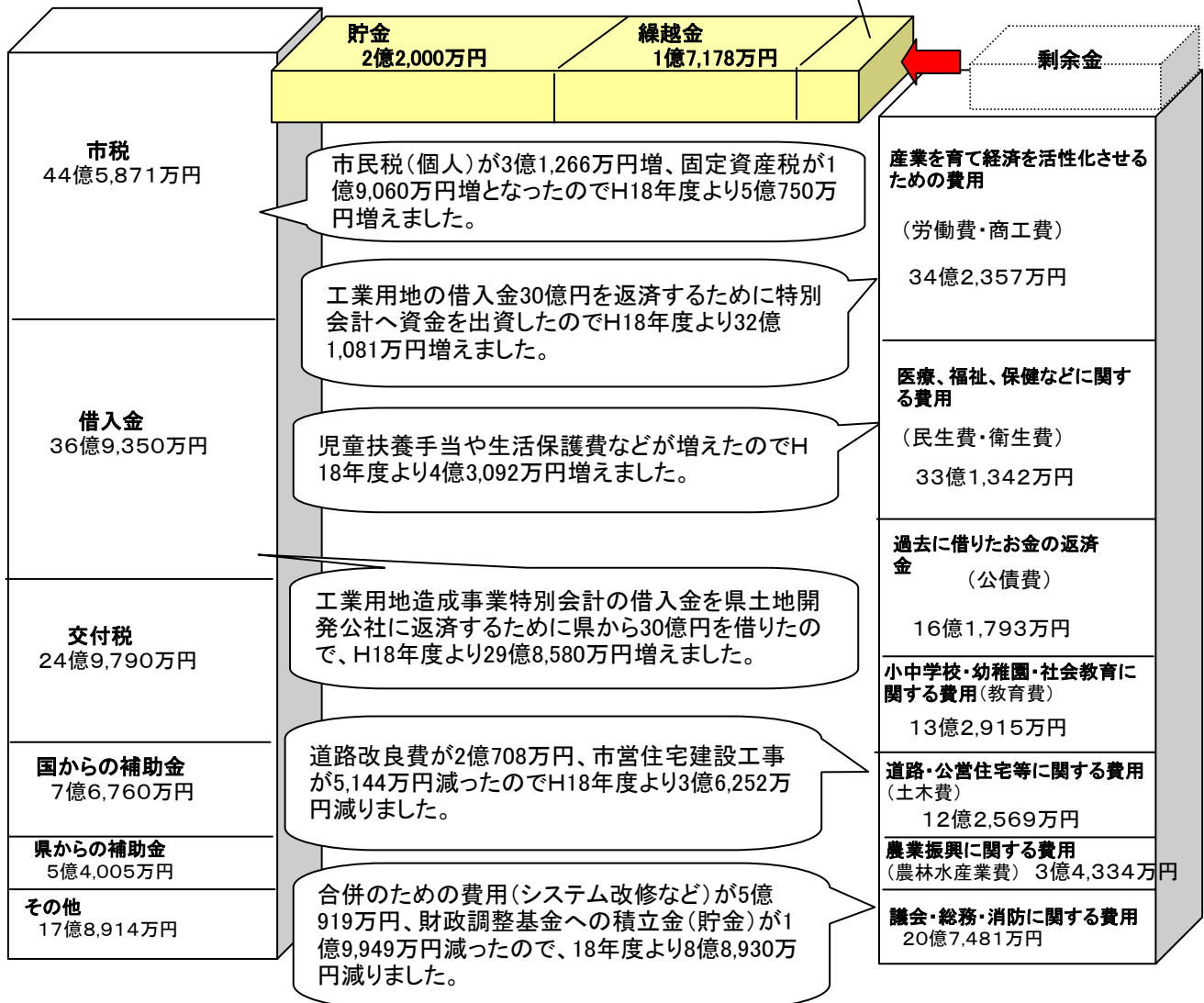
歳入から歳出を差引いた収支は4億1,899万円の黒字となりました。歳入については、市税や交付税が予算額を上回り、歳出については、産業、医療、福祉など必要なところにお金を使い、その他はできるかぎり節約したことから、取り崩す予定であった貯金(財政調整基金)を使わずに済みました。

剰余金4億1,899万円のうち20年度に使い道が決まっているお金(H19年度中に事業が完了しなかった分)は2,721万円、貯金に2億2,000万円を積み立て、残りの1億7,178万円を20年度に繰り越しました。

歳入総額
137億4,690万円

20年度に使い道が決まっているお金
2,721万円

歳出総額
133億2,791万円



H19年度の決算は、H18年度と比較すると歳入が23.6%増、歳出が23.4%増となりました。次のページで主な事業にどのくらいお金が使われたかを具体的に説明します。

H19年度の主な成果

1. 豊かな心と創造性あふれる

本宮小学校大規模改修事業

3億3,016万円



小中学校
メニュー選択性補助金
633万円

岩根小学校増築工事設計
耐震診断業務委託

909万円



人材育成のまちづくり

2. 住民と行政の協働による

男女共同参画の推進

行政経営戦略プランの策定

119万円

63万円



地域振興事業

190万円

自立したまちづくり

3. 共に支えあう

予防接種の実施

3,158万



小学生入院医療費助成

33万円

児童手当の給付

2億8,129万円



乳幼児健康診査の実施

412万円



老人保健医療事務

3,225万円

老人福祉施設整備助成

5,262万円

生活保護事業
1億6,542万円



健康診査の実施

7,533万



やさしいまちづくり

4. 活力あふ

商工会への補助

1,016万

観光振興事業

1,385万



水田農業改革推進事業

1,463万



農産物生産拡大事業

299万円



ふるさとのまちづくり

5. 安全安心な

防犯灯設置工事

250万円

道路や橋の改良・新設・補修

4億9,613万円

歩道・ガードレール等設置

716万円



消防団活動支援

4,596万



環境のまちづくり

特別会計・企業会計



限られた予算の中で、節約をしながら運営したので、すべての会計が黒字となりました。

特別会計の決算

会計名	歳入	歳出	差引
国民健康保険特別会計	31億1,322万円	29億5,231万円	1億6,091万円
老人保健特別会計	29億2,939万円	29億2,000万円	939万円
介護保険特別会計	14億8,611万円	14億4,018万円	4,593万円
公共下水道事業特別会計	10億9,761万円	10億8,595万円	1,166万円
農業集落排水事業特別会計	4,763万円	4,632万円	131万円
工業用地造成事業特別会計	36億172万円	35億9,911万円	261万円
工業用地資産運用事業特別会計	31億7,513万円	31億7,513万円	0円
住宅団地造成事業特別会計	1,043万円	819万円	224万円

企業会計（水道事業）の決算

経常的な収支		投資的な収支	
収入	10億445万円	収入	7億6,296万円
支出	8億9,120万円	支出	12億4,691万円

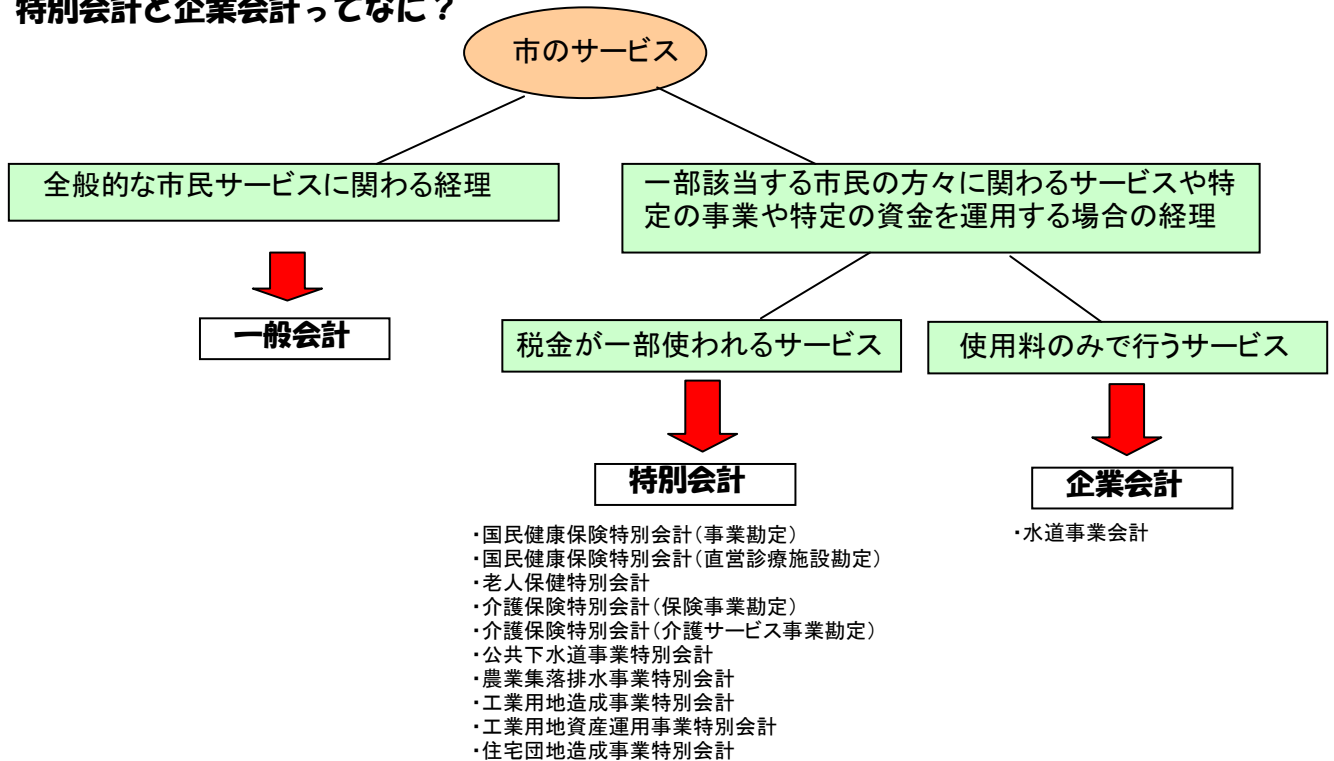
※投資的な収支の不足分は留保資金や積立金を取り崩して補てんしました。

企業会計（水道事業）の借入金

H18年度末残高	H19年度借入額	H19年度返済額	H19年度末残高
45億1,177万円	7億5,390万円	9億4,309万円	43億2,258万円

※H19年度は、過去に財政融資資金と公営企業金融公庫資金から借入した市債のうち、利率が高いもの(7.0%以上)を低い利息に借換えをしたので、借入額・返済額が多くなりました。

特別会計と企業会計ってなに？



特別会計や企業会計は、例えば下水道事業のように下水道が敷設された地域とそうでない地域の人たちが同様な負担をすると不公平が生じるので、特別会計や企業会計を作って別に管理しています。企業会計は、独立して運営するので民間企業と同様に経理を行います。本宮市には、水道事業会計があります。

本宮市の借金ほどのくらいあるの？

H19年度末残高

市債残高

232億5,136万円

債務負担行為残高

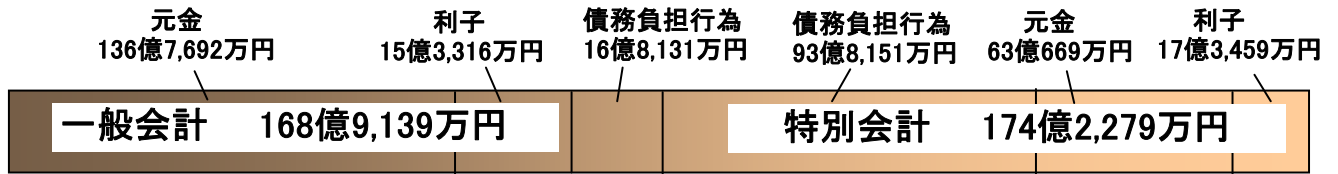
110億6,282万円

343億1,418万円

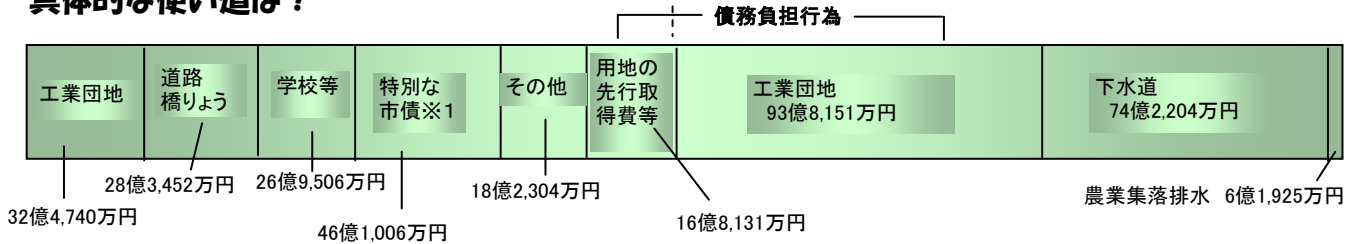
市民1人
当たりでは？

108万円

H20.3.31現在の
住民基本台帳の
人口
31,696人



具体的な使い道は？



※1 特別な市債：国が交付すべきお金を地方が借入金でまかなうこととされたもの。返済した金額は交付税に算入されます。

H19年度に一般会計で発行された市債の使い道は？

本宮小学校改修

1億5,660万円



本宮小学校の耐震補強や校舎の解体・改築のための設計などに使いました。

道路整備

1億3,640万円



堀切・赤坂線、除石・江口線、大山・松沢線の道路改良に使いました。

消防車購入

1,530万円



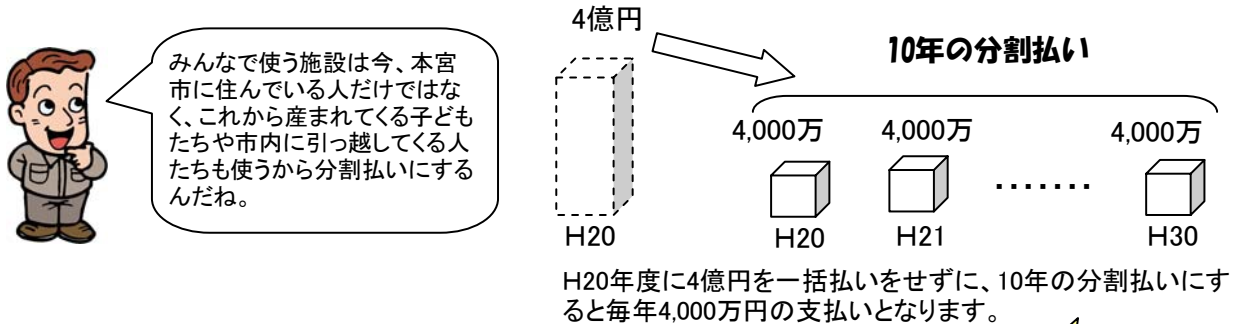
20年間使用してきた消防ポンプ車を更新するために使いました。

どうして市債を発行するの？

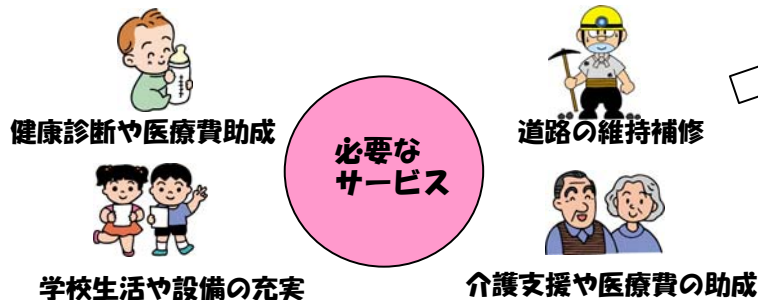


市債とは、道路や橋、学校など長い年月使用する施設を建設する場合に発行するものです。このような施設を建設する費用は、建設したときの市民だけがすべてを負担するのではなく分割払いにすることで、将来、市民となられる方々にも公平に負担していただきます。

例えば、4億円で体育館を造った場合



もし、市債を発行せずに体育館を造った場合...



本宮市の貯金はどのくらいあるの？

基金名	H19末残高
財政調整基金	11億5,732万円
緑化基金	1億102万円
地域福祉基金	4億2,046万円
本宮小学校整備基金	1億3,967万円
白沢総合支所庁舎建設基金	2億8,835万円
その他	1億5,751万円
合計	22億6,433万円

基金残高は22億6,433万円

財政調整基金は災害が発生したり、経済の急激な変化で税収が減ったりなどといった不測の事態に備えて積み立てている貯金です。また、小学校の建設など大規模事業等、特定の目的のために積み立てられている基金もあります。

H19年度は財政調整基金(普通貯金)に1億9,217万円を積み立てました。



本宮市の財政は健全なの？

単年度の収支状況だけでは、財政がどのような状態にあるかわかりません。そこで、市の財政運営に関わるすべての要因を含めて判断するために次の4つの指標を算出します。



実質赤字比率 該当なし イエローカード 13.81%

一般会計に赤字額がどれくらいあるかを表します。

連結実質赤字比率 該当なし イエローカード 18.81%

一般会計と特別会計・公営企業会計のすべての会計の赤字額がどれくらいあるかを表します。

実質公債費比率 21.5% イエローカード 25%

市の財政運営に影響するすべての会計の借入金の返済に充てた経費がどれくらいあるかを表します。

将来負担比率 240.0% イエローカード 350%

市の財政運営に影響するすべての会計の借入金の返済、退職手当などの将来に負担が見込まれる経費がどれくらいあるかを表します。

上記の4つの指標が基準値を上回る場合は、早期健全化団体(イエローカード)、財政再生団体(レッドカード)となります。早期健全化団体になると財政健全化計画を策定し、計画の基づいて健全化を図ることになります。また、財政再生団体になると、再生計画の策定や市債などに対して国の管理下におかれるため、自主的な財政運営ができなくなります。

本宮市では、H19年度決算では4つの指標とも基準を下回りました。しかし、実質公債費比率や将来負担比率については高い数値がでていますので、今後も事業の効率化を図り、できる限り節約して健全な財政運営をします。



現在高めの数値がでている実質公債費比率と将来負担比率については、今後減少していくので心配ありません！

今後のために今することは？

本宮市では、厳しい財政状況の中、市民の皆様に必要なサービスを提供するために、H19年度に「本宮市自主的財政健全化計画」を策定しました。以下の点に重点をおいて財政運営していきます。

<歳入>

- 1. 税収の確保**
収納体制の強化を図ります。
- 2. 遊休財産の売却**
将来利用計画がないものについて適正に売却します。

<歳出>

- 1. 人件費の抑制**
特別職給料、議員報酬、管理職給料及び手当の減額をH20～22年度に実施します。
- 2. 経費の節約**
施設の維持管理の経費や消耗品、物品の購入などの経費を節約します。



市は将来を見据えてしっかりと財政運営をしていきます。市民の皆様も財政事情をご理解いただき、市政の在り方について一緒に考えていきましょう。

このページに関するお問い合わせは財政課財政係(内線232)へ